

子宮頸がんって何？

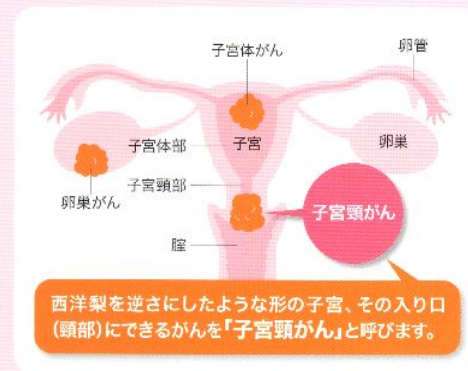
●子宮頸がんとは…？

子宮頸部(子宮の入り口付近)にできるがんです。

子宮がんには2種類あり、子宮の奥(子宮体部)に発生する「子宮体がん」*もあります。

*子宮体がんは、別名「子宮内臓がん」とも呼ばれます。

子宮頸がんの部位



子宮がんの特徴

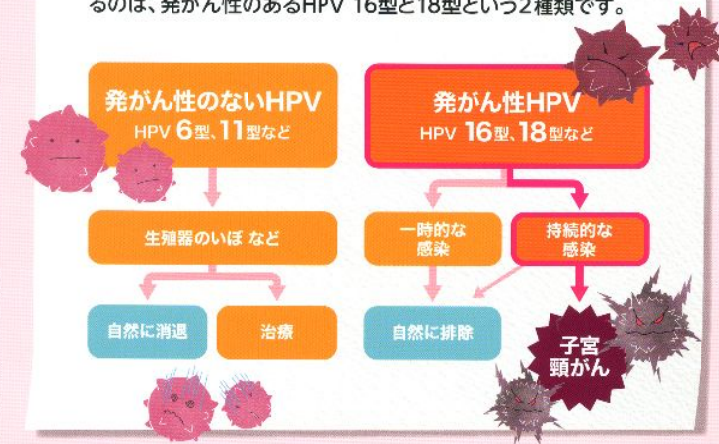
	子宮頸がん	子宮体がん
患者の典型例	<ul style="list-style-type: none"> ●30代が発症のピーク 	<ul style="list-style-type: none"> ●50代で肥満
リスクファクター	<ul style="list-style-type: none"> ●発がん性のヒトパピローマウイルス (HPV) 感染 	<ul style="list-style-type: none"> ●肥満、高血圧、糖尿病 ●未経、産婦(未婚・既婚にかかわらず) ●エストロゲン製剤の長期使用
初発症状	ほとんどなし	不正性器出血

古川 裕之監修「子宮頸がん」発症がある。第2版 vol.9 婦人科・産婦人科 医療者 婦科学研究社編：196、2009より改変

監修 横浜市立大学附属病院化学療法センター長 准教授 宮城 悦子 先生

発がん性HPVというウイルスの感染が原因です。

HPV(ヒトパピローマウイルス)は皮膚や粘膜に存在する、ごくありふれたウイルスです。そのうち、子宮頸がんから多くみつかるのは、発がん性のあるHPV 16型と18型という2種類です。



子宮頸がんを予防するワクチンがあります！

●効果

HPV 16型と18型の感染を防ぎ、前がん病変(がんになる前の異常な細胞)の発症を予防します*。

*発がん性HPVの持続的な感染や前がん病変を予防することにより、子宮頸がんを予防できると考えられています。子宮頸がんに対する予防効果については確認されているわけではありません。また、感染している発がん性HPVを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療したりすることはできません。

●接種対象年齢

10歳以上です。
なお、11~45歳までの女性は、子宮頸がん予防ワクチンの接種を推奨されています¹⁾。



第一の接種推奨対象

11~14歳



第二の接種推奨対象

15~45歳



1) 林田 久人 日本産婦人科協会「子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)接種の手引き」平成22年9月1日より作成

グラクソ・スミスクライン株式会社

CRXA0062-01101N
作成年月2011年1月

子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス)を接種する方へ

腕の筋肉に注射します

接種後は、もまないでください。



3回接種します

接種スケジュール



十分な予防効果を得るためには、3回の接種が必要です。

1回目にサーバリックスを接種した場合には、2回目、3回目もサーバリックスを接種してください。2、3回目で他の子宮頸がん予防ワクチンを

接種後の症状と注意

- サーバリックスを接種した後に、注射した部分が腫れたり痛んだりすることがあります。
- 注射した部分の痛みや腫れは、体内でウイルス感染を防ぐ仕組みが働くために起こります。通常は数日間程度で治ります。

重い副作用として、まれにアナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)があらわれることがあります。

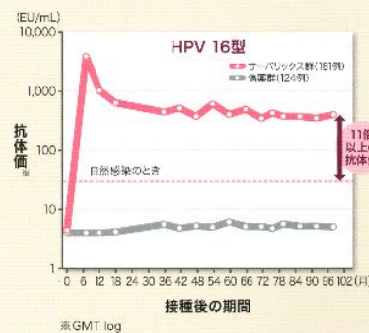
- 接種後に重いアレルギー症状や血管迷走神経反射として失神が起こることもあるので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は安静にしてください。
- 接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときには医師にご相談ください。

子宮頸がん予防は、ワクチンと検診のセットで!

子宮頸がん予防ワクチンを接種しても全ての女性HPVの感染を予防できるわけではありません。ワクチンで予防できない子宮頸がんは、これらと併せて、定期的な検診で早期発見することが大切です。

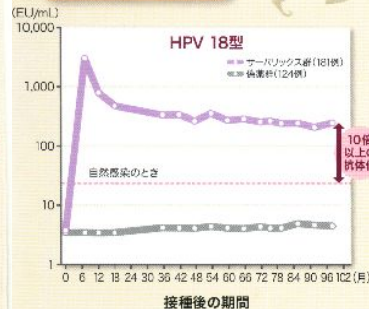
サーバリックスを3回接種することで、子宮頸がんから多くみつけるHPV 16型と18型に対する抗体の量(抗体価)が、8.4年間、それぞれ自然感染のときの11倍、10倍に維持されることが確認されています。

接種後8.4年間の抗体価



抗体は、ウイルスと戦って、ウイルスの感染を防ぎます。

抗体は、ウイルスと戦って、ウイルスの感染を防ぎます。



Retelli-Martins C et al. ESPI02010, Nice, France May4-8(ポスター発表より改変)

接種した場合の予防効果は確認されていません。

接種後には 冊子「サーバリックスを接種された方へ」をお読みください



十分な抗体が維持される期間

20年間*

※6.4年間の追跡調査により推計

主な副反応

- 頻度10%以上
かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
- 頻度1~10%未満
発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染
- 頻度0.1~1%未満
注射部分のビリビリ感/ムズムズ感
- 頻度不明
失神・血管迷走神経発作(息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど)



子宮頸がん予防ワクチン

+

定期的な検診